

☆☆☆平成26年2月4日山脇学園社会入試問題2【歴史】文章一部改☆☆☆

1467年に応仁の乱がおこると、室町幕府はおとろえていきました。守護大名（戦国大名）とよばれる各地の武将が、自分の領国を広げるために、周りの守護大名とはげしく争いました。守護大名は分国法を制定し、城下町を整備して、富国強兵に努めました。

守護大名のひとりとなった織田信長は尾張に生まれ、1560年に駿河の今川義元を桶狭間の戦いで破りました。1575年の長篠の戦いでは鉄砲隊の活躍により甲斐の武田勝頼を破りました。全国統一の根拠地として、1576年には近江に壮大な天守閣を持つ安土城を築きました。また、楽市、楽座を行い、各地の関所を廃止するなど、商工業の発展をはかりました。さらに、キリスト教を保護したため、スペインやポルトガルから宣教師や貿易船が来航しました。こうして織田信長は全国統一をすすめたが、1582年、京都の本能寺で家臣の明智光秀におそわれ、自害しました。

羽柴秀吉（豊臣秀吉）は明智光秀を山崎の戦いで破り、賤ヶ岳の戦いでは柴田勝家を破り、織田信長の後継者となりました。1583年には大阪城を築き、根拠地としました。1590年には小田原の北条氏政、氏直親子らを降伏させるなどして、全国統一を完成させました。また、羽柴秀吉（豊臣秀吉）は1585年に朝廷から関白に任じられ、翌1586年には太政大臣となりました。検地と刀狩を行い、さらには、中国（明）を征服しようとして朝鮮に二度も出兵しました（1592年文禄の役、1597年慶長の役）が、豊臣秀吉が病死し、実現しませんでした。

徳川家康は、豊臣秀吉の死後、1600年の関ヶ原の戦いで西軍の石田三成らを破り、全国支配の実権を握りました。1603年には江戸幕府を開き、1614年大阪冬の陣の半年後の1615年大阪夏の陣で主家であった豊臣家（豊臣秀頼）を滅ぼし、武家諸法度という法律を制定して、徳川幕府にそむく者を処罰しました。死後は、栃木県の日光東照宮に神としてまつられました。日光東照宮は陽明門が特に有名です。徳川家康の孫の徳川家光は1635年に武家諸法度をあらためて、参勤交代の制度を定めました。

江戸時代の社会には、支配者としての特権を与えられた武士、百姓や町人など、さまざまな身分の人々がいました。そのうち、百姓は全人口の約85%をしめ、収穫の半分ぐらいを年貢として負担していました。有力な百姓が名主、組頭、百姓代などの村役人となって村を治めていました。